

2026年7月1日
株式会社SVPジャパン

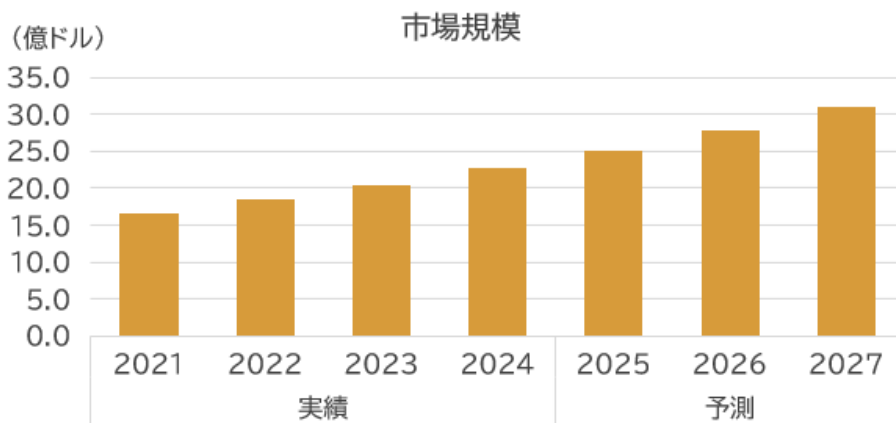
SVP注目市場分析 「高耐熱・高放熱材料」を公開

～EV・AI時代を支える熱管理材料の成長戦略～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「高耐熱・高放熱材料-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ 高耐熱・高放熱材料の世界市場



高耐熱・高放熱材料とは、半導体チップやバッテリーセルなどの発熱源から、ヒートシンクや液冷プレートなどの冷却機構へ熱を効率的に伝達・放散する機能性材料であり、TIM (Thermal Interface Material)、絶縁放熱セラミック基板、高耐熱ポリマーなどが含まれる。近年、EVやAIサーバー、パワー半導体の高性能化により、システムの性能・安全性・寿命を左右する最大の制約要因が「熱」へ移行しつつある。実際、最新GPUでは空冷の限界を超える発熱が生じ、EV電池でもわずかな温度上昇が寿命低下につながるため、熱管理の重要性は急速に高まっている。今後はさらに、EVの高電圧化、SiC・GaN半導体の普及、データセンターの液冷化を背景に、中長期的に市場は安定成長を続ける見通しであり、特にEV向けギャップフィラー、SiCモジュール向け窒化ケイ素AMB基板、AIサーバー向け超低熱抵抗TIMが有望分野となる。

■ 高耐熱・高放熱材料の市場概況

高耐熱・高放熱材料市場では、TIMや絶縁セラミック基板、高耐熱ポリマーなど材料ごとに競争構造が異なり、欧米の化学メーカーと日系機能材料メーカーが主導している。特に車載・半導体用途では、高信頼性や採用実績、顧客との共同開発力が重視され、参入障壁は高い。一方、EVの高出力化やAIサーバーの液冷化を背景に需要は拡大し、材料メーカーには熱マネジメント全体を見据えた提案力が求められている。さらにPFAS規制の強化により、PFASフリー材料への転換が新たな競争軸となっている。日本市場はEV普及では欧中に遅れるものの、SiCパワー半導体向け基板や高機能TIMの供給拠点として重要性を維持し、高付加価値技術で存在感を高めていく見通しである。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造
- VII. 課題
- VIII. 日本市場の動向



←レポート全編を見る **クリック**

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

8月のテーマは「全固体電池」と「ナトリウムイオン電池」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com